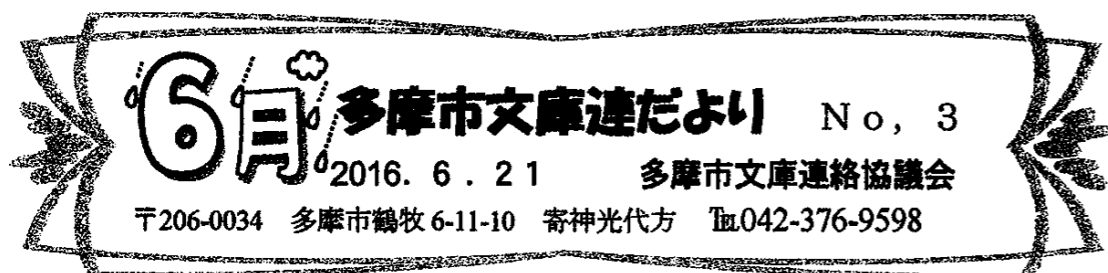


○多摩市文庫連だより より



＜中島図書館長の報告と意見交換＞

・図書館の計画について

「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」が更新される。また、本館は暫定施設なので建替に向けて基本構想策定委員会が6月から開始される。

以下、文庫連の質問意見に対して誠実に答えていただきました。

Q：図書館としては地域館の機能を先の見通しとしてどのように残していくのか？

A：「多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口推計では、現在の14万人台から、2060年には10万人代との予測もある。公共施設の現状維持は難しいと思う。地域の図書館機能は必要と思うが、一般的には自動車図書館やブックコンテナによる配本などのアウトリーチサービスが活用されている。学校図書館をそのまま地域館とするのは難しいが、地域的な分散を考えると、学校施設との連携も考える必要があるのではないかと。

Q：例えばぬいぐるみのお泊まり会など児童担当が企画する催しが目立つが、基本のサービスがおざなりになっていないか心配。職員の専門性が育たないのでは？

A：各館の企画は必ずしも子ども読書支援係がやっているわけではない。各館の児童担当が決めるところも多い。選書も今は本館の企画運営係が集中してやっているが、子ども読書支援係も関わるよう、少しずつ見直したいと考えている。

Q：数年前に職員の係分担当が変わって良い所と見直した方がよいところがあるように思うが。

A：以前は担当制で多くの職員が関わり、常勤と非常勤の仕事の明確化などに課題があり、うまく回らないところがあったと変えたと思う。総務係、企画運営係なども含めて本館整備に向けて見直す必要もあると思う。

Q：調布の分館を見たが、蔵書構成が素晴らしい。面積は小さいが地域の人にサービスできる質と量があり、地域資料、行政資料も必要な分が整っている。予算が独自にあり資料には館籍がある。これからの分館の参考にしたい。

A：多摩市も書庫の資料やレファレンス資料など館に固定するものとしたいものがある。これから本館整備に向けて参考にしたい。

Q：永山図書館の児童展示で切り絵が飾ってあって、とても素晴らしい。継続した職員の力ではないか。頻繁に異動させないで職員の専門性を育ててほしい。

A：自分も図書館から異動したが、予算を立てる時に市役所の仕組みを知る必要を感じた。仕事によっては異動も役に立つが、専門性を蓄積していくことも大事だ。

Q：本館整備はまだ約5年後だが、それまでにできることをやってほしい。また、将来的に地域館の機能が縮小しても、なんとしても直営で運営してほしい。

講演会など参加報告



★浦安市立図書館見学の感想

“多摩市に中央図書館をつくる会”の図書館見学会に便乗して、7月7日(木)に、浦安市立図書館の見学をさせていただきました。

浦安市の面積は17.29㎢ 人口は165,839人 (2016.5.31現在)
多摩市の面積は21.08㎢ 人口は148,312人 (2016.6.1現在)

浦安市には中央図書館の他に、7つの分館があり、その他にリクエスト本を貸し出し、返却できるサービスセンターが3ヶ所あります。市内歩いて10分圏に図書館関連施設が整備されていて、利便性が高く、市内全体を網羅できる図書館ネットワークができていて、すばらしいと思いました。

見学させていただいたのは、下記の所でした。
(利用者数と貸出数は2014・4～2015・3のデータより)

- 中央図書館 (延床面積5,296㎡・蔵書数828,061冊・利用者数236,665人・貸出冊数819,352冊)
- 猫実分館 (面積238㎡・蔵書数49,837冊・利用者数35,775人・貸出冊数102,223冊)
- 高洲分館 (面積407㎡・蔵書数69,663冊・利用者数62,826人・貸出冊数199,807冊)
- 浦安駅前行政サービスセンター (利用者数10,220人・貸出冊数20,500冊)
- 新浦安駅前プラザ・マーレ図書サービスコーナー (利用者数93,450人・貸出冊数180,019冊)

中央図書館については、各種サービスが行き届いていて、進化し続けている図書館としました。
分館については、地域の特性を生かして、資料の展示の仕方に工夫が凝らされ、館内に一歩踏み入れたとたんに、展示されている本に吸い寄せられていくようで、職員の技能の高さを感じました。何よりお子さん達が楽しそうに本を読んだり、お話ししている様子が、とても良いと思いました。

＜なかよし文庫 鈴木百合子＞



子どもの本に関する学習報告

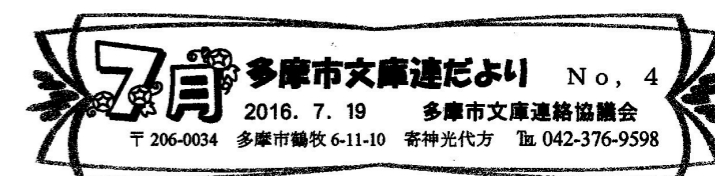
担当：かしのき文庫 澤柳弘子

「うちのせんだんのき」佐賀のわらべうた
歌詞に出てくる「せび」はセミのこと、
「びつき」はカエルのこと。
「梅檀(センダン)は双葉より芳(かんば)し」
のことわざでよく知られますが、これはセンダン
ではなくビャクダン(白檀)を指すそうです。

↓せんだんの葉と実



写真の実には緑色をしていますが、
やがて白くなります。



★ひらこう！学校図書館

「学校図書館を考える全国連絡会」第20回集会参加報告 7月9日(土)

1997年に発足した「学校図書館を考える全国連絡会」は今年20年目の節目を迎えました。今回の講演は「学校教育はいま一試される市民の良識と力」と題して藤田英典さん(東大名誉教授・教育社会学)が講師でした。午後からは問題提起として「図書館の外部委託の問題について」を松岡要さんにお話いただき、その後各地の報告・意見交流が行なわれました。

- 藤田さんは1. 教育問題をどう見るか？、
2. 歪んだ危機の捉え方と政治主導の改革、
3. グローバル化時代の学力形成、
4. 安倍政権「教育改革」の危険性、
5. 学校教育の基本的役割とこれからの教育という順に話されました。

「いじめ、不登校、校内暴力、学校崩壊、少年犯罪」など教育の危機と叫ばれ、放置できない問題として「ゆとり教育」「心の教育」として、改革推進を心情的・道義的に正当化し、四半世紀以上にわたって政治主導の改革が行なわれてきたが、どれもその対応として、有効でも適切でもなかったと厳しく指摘されました。また、グローバル化の中で行なわれてきたIEA/TIMSS(確かな学力・「知識」学力)調査、2000年より行なわれているOECD/PISA(新しい学力観・学習観として「活用」学力)の日本の学力が話題になりましたが、どちらもコアに違いは無く、日本は上位を占めてきた。その結果は日本の教育制度が優れていると現在も海外から評価されているのに、なぜ安倍政権は改革を進めようとしているのか？その狙いは教育基本法改正から憲法改正への道筋をつけるための国家戦略によるものであり、さらに道徳の教科化など歪んだ愛国心醸成・右傾化への危険性を感じると指摘されました。

日本が長年取り組んできた確かな学力づくりと、安全安心で公平な教育機会を保障する取り組みを「地域に根ざした学校づくり」として自治体、市民が担っていくのかと問いかけられ、政府がどうあれ多摩市はどうあるべきかと考えながら帰途に着きました。少なくとも今は学校図書館に学校司書をきちんと配置して、さらにレベルアップするための施策を進めていこうとしているように感じています。

(コアラ文庫 青木洋子)

日時：平成28年7月21日(木)16：40～18：00

場所：多摩市立図書館本館 講座室

出席：多摩市に中央図書館をつくる会：代表、副代表、会員 計6人

多摩市立図書館：中島館長、村野、小澤、松田、笹原

寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

傍聴：本館再構築基本構想策定委員：鈴木委員、辻山委員

話題01、図書館研究/支援をつづける市民としてのこれまでの活動。

①会の活動のこれまで、めざすこと、これからの活動や仲間づくり。

1. 設立経緯

1999年6月、多摩市企画部が募集した第四次総合計画策定の市民ワークショップ「まちづくり研究会」が始まり、同年9月に基本構想、12月に基本計画が市民より提言されました。その後、提言の一つであり、建設が遅れている中央図書館につき、その計画の早期実現に向け、市民の力でできることをしようと、2000年2月6日に「多摩市に中央図書館をつくる会」が設立されました。このため会の目的は「多摩市における中央図書館の望ましい姿を研究し、実現に向けて市民の立場から多摩市に提言、共同で実現を目指します」

2. 活動内容

- 1) 多摩市の21世紀にふさわしい中央図書館の学習・研究を行う
- 2) 中央図書館・地域図書館・学校図書館・近隣の公共図書館のネットワーク化について学習・研究を行う。
- 3) 大学・企業の図書館とのネットワーク化についての学習・研究を行う。
- 4) 研究調査の成果を公開し、市民・行政・議会に働きかける。

◎会報、勉強会の記録などは、図書館・教育長・議員に配付・販売している。

◎結成17年目、会員数35名

②多摩市の読書活動支援や図書館応援の、市民グループの存在と連帯は。

- ・多摩市文庫連とは、会員の一部が両方に所属していて、展示や見学などの活動の際にお互いに協力するなど連帯している。
- ・昨年結成された「多摩市の社会教育を考える会」に個人参加し情報交換しながら、緩い連帯をしている。昨年4月には市議会議員候補予定者に対するの対話集会では協力した。

話題02、図書館応援市民グループから基本構想策定委員会に伝えたいこと。

(政策としての図書館基本構想立案の本当の当事者は多摩の図書館員。それを応援し、看視と対峙をする市民利用者のグループとして。)

①地域図書館廃止を聞いた市民からの存続要望のチラシで、多摩の行政や図書館員に何を伝えたかったのか。

- ・当会が出したものは無いが、地域図書館利用者として4館廃止提案を阻止したいと考えるのは共感する。しかし、今のまま残せばよいとは思えない。
- ・また、今回の情報誌は地域館を残すために中央図書館は作るべきではないとも受け取れる内容なのは残念。

②廃止問題に揺れる分館の現状と将来像に望むこと。

(新しい中央館が生まれた後に、どんな利用分布に変化するのか。駅前の子越やイオン、身近にのこるコンビニ、魅力の棲み分け。地域館から縮小されるニーズ、残るニーズはなんだろうか。)

③多摩市の生まれ変わる図書館のありかたに望むこと。

(資料世界の構造化・組み立てる編集者表現者としての図書館員
・ブラウジング、エコロジカルラーニングに図書館の存在意義を
・マーク典拠の重要性・多摩の図書館事業費は高いというけれど)

※チラシの「わたしたちの図書館」から「わたしの図書館」になること。

(市民の使うことばの深度の変化に気を向ける。

「私の図書館」になること、そうありつづけることのむずかしさ。)

唐木田・豊ヶ丘・聖ヶ丘・東寺方 地域館のいま、そして再編後について 関戸・永山 拠点館のいま、そして再編後について

○分館の現状と将来像

- ・子どもと高齢者のための図書館が必要と言われているが、成人向けもある程度必要。
- ・障害者支援は？現在は永山が拠点館、永山と聖ヶ丘には対面朗読室有り。中央館に集約して良い？否、移動が困難な人には地域でのサービスが必要では？
- ・学校図書館、保育園、幼稚園への連携サービスの窓口。たとえば小中学校21校を地域で分担してはどうか。
- ・分館にあるべき資料を検討。浦安市の分館を見学、資料の部厚さを感じた。季節の企画などの複本もあれば良い。
- ・開いた余裕スペースに何を整備する？福祉の地域包括出先機能？(考え中)
- ・豊ヶ丘図書館、本はある程度あるので普段の利用には良い。10～20冊借りることもあり、歩いていけるところが良い。本館をつくってほしい気持ちもあるが、ネットワーク全体を考えてほしい。

○関戸・永山の拠点館

- ・中央館に資料を引き上げるとしてどれくらいの資料規模が適当？空いたスペースに何を整備するか？
- ・関戸は多摩センターが遠いので、今くらいの規模が必要。
- ・永山は最近増えている若い世代への支援が必要だし、高齢化も進んでいる地域。公民館と連携して居場所づくりを

○分館は今のままでよいか

- ・職員の配置、必要な資料が地域館で手に入らないという状況。本館ができるまで5年ある。このままで良いのか。
- ・今後、嘱託を増やして経費を削っていくのだろうが、専門職を育てていくにはどうしたらよいか。
- ・建物の耐久年数の問題
- ・資料に館籍がないので、本がくるくる廻っているだけで資料としての価値があるのか。地域館に購入権限がない。

○行政資料室、行政資料のあり方について

- ・行政資料の廃棄権限について。資料は市の税金でつくったものなのに、都合の悪いものは廃棄されているようだ。
- ・現在、行政資料室が持っている資料は本館が持って管理していくべき。廃棄権限も図書館が持つべき。
- ・行政資料室には、資料が出てこない。請求しても届かないので、発行元に取りに行く状況。
- ・教育委員会の作った資料が図書館に収集されていない。

○地域資料について

- ・地域館に地域資料がない。他市では、分館でも充実しているところがある。

○お話会のスペース

- ・お話室は独立したスペースが理想だが、カーテンで仕切るだけでも機能している事例もある。検討してほしい。

○小さな模様替え

- ・地域館で模様替えをして、利用者が増えたことがあった。職員のやる気で掘り起こせる需要もある。

多摩市立図書館本館のいま、そして新館について

○生まれ変わる図書館のありかたに望むこと

- ・中央館の立地条件
- ・将来的な拡張スペースが必要では？浦安市では、中央図書館の改修を行うようだ。武蔵野市、町田市では予約本受け取りコーナーを改装している。利用者の使い方に合わせて拡張性が必要ではないか。より駅に近い方が全市民にとって便利。それが無理ならアクセスと駐車場を充分考える。

・職員の質

- ・専門職制の確立を目指す。分館には特にすべてに対応できる優れた職員を配置。
- ・職員の研修と配置。長く努めてもらえる身分保障。館長の交代が2年から5年と短いように思う。
- ・資料費を今の1.5倍くらいに位置づけた上でないと充実した図書館網が築けない。浦安市は1億円。本館に蔵書が無いと役に立たない。先進図書館に比べて貧弱。
- ・館籍のあり方も考え直す。配架と書庫のバランスはきちんとできているか？
- ・資料構築、蔵書の厚み・深さ・幅、ジャンルによって様々な利用者の要求に応える資料を整備してほしい。
- ・行政資料・地域資料の収集と保存
- ・運営については現在唐木田図書館が民間委託されている。市長が運営は直営でやると公言されているので全館そうなることを願っているが、建物の建設についてもPFIやPPP手法は取らずに、市が責任を持って建設に携わったほうが長期的視野で経済的だし、市民の声が反映された良い図書館ができると思う。

○地域資料について

- ・地域で活動している人のチラシ、最近までは本館の玄関付近に集約されていたが、分散してしまった。もういちど一覧できるような場所をつくれないうか。活動を誘うような場が必要。
- ・地域資料をどのように後世に残せるか。この土地でしか生まれなかった資料を根気よく集める収集能力が必要とされる。
- ・多摩市に在住した人が作った資料を収集し、PRしていくべきだ。

○企画、講座など

- ・大人の読書支援がない。今の図書館の雰囲気では読書会などをやりにくい。
- ・YAサービスもその年代は自ら意見を言ってくれないだろう。若い人向けの本の読書会などを開いて交流できれば良い。

○映像視聴の環境

- ・視聴覚資料の個人視聴スペース、講座室での映像視聴の環境を整えてほしい。

○展示について

- ・図書館は情報発信基地。他市の分館で小さなスペースでも手に取りたくなるような企画展示の工夫がある。本館のミニ展示などは、最近工夫しているようだ。

○中央館としての本館

- ・図書館システムは今も機能していて、不足している部分を補えば良いだけで、生まれ変わる必要があるのかな、と思う。貸出は70%拠点館、30%が地域館でうまくいっているのでは。本館が大きくなって拠点館が補ってる。今のままでは7館全部が持たないというが、もういちど検討してもらいたい。

○多摩市に中央図書館をつくる会ニュース より

多摩市に中央図書館をつくる会ニュース

NO.60 2016年 6月 8日発行

図書館を考える風景 図書館友の会全国連絡会第10回総会！！

2016年5月23日(月)に、図書館友の会全国連絡会(図友連)の第10回総会が公益法人日本図書館協会(東京都中央区新川1-11-14)2階研修室で開催されました。

総会に先立ち、「いま改めて図書館への指定管理者制度導入について考える」学習会が開催されました。講師は約30年間岡山市立図書館に勤めて、図書館に関する個人誌『風』を出されている田井都久雄氏です。学習会には本会より4名参加しました。(学習会の詳細は本文を参照)

図友連は、北は北海道から南は沖縄までの78団体、127個人、会員数205の全国組織です。総会は、年1度の顔を合わせる一大イベントです。今回は、32団体、12個人、オブザーバーが2団体参加しました。

基本方針としてこのニュースで時々掲載している、「私たちの図書館宣言」を掲げ活動しています。総会後の交流会では、それぞれの団体・個人の状況説明等情報交換をしました。

5月24日(火)は要請行動として、公立図書館の振興についての要望書を、文部科学大臣、総務大臣に提出、義家文部科学副大臣、土屋総務副大臣と面談、また、衆参議員を訪問し、公立図書館の振興についての力添えのお願いをしました。(24日の要請行動は次回に報告)

(詳しくは本文参照)写真1.2・文責 小荒井 順、写真3.船橋圭子

○図書館学習会

“市民の図書館”であり続けるために！

第30回図書館学習会&ワークショップ

「次世代のための図書館網を考えよう」 ～中央図書館と地域館の望ましいあり方～

第1部 13:30～14:00 多摩市立図書館の計画について
図書館企画運営係 阿部玲子氏

第2部 14:00～16:30 ワークショップ パート2

パート1の内容詳細は裏面へ

昨年8月にワークショップ「次世代のための図書館網を考えよう」を開催しました。その後「多摩市公共施設見直し方針と行動プログラム」の見直しの動きがあり、今年度、図書館本館の再構築のための基本構想策定委員会が立ち上がることになっています。

これからの多摩市の図書館網を、どのようにしていったらよいか、昨年のワークショップの結果及びその後の行政の動きを踏まえ、中央図書館と地域館の望ましいあり方を考えるワークショップを開催します。そしてワークショップの結果を多摩市に提出します。

多摩市の未来をみんなで考えましょう。

- ◇日時 2016年7月3日(日) 午後1時30分～4時30分 (開場:午後1時15分)
- ◇会場 **ペルプ永山 4階 視聴覚室**
京王線・小田急線永山駅下車徒歩3分 地図裏面参照
- ◇定員 30人 (申込先着順6月26日まで受付)
- ◇参加費 資料代 300円

◇主催 多摩市に中央図書館をつくる会

◇問い合わせ・申込 青木 Tel090-7002-1588 鈴木 Tel/Fax 042-389-6809
E-Mail: yy.aoki@nifty.com

○見学報告

■調布市立図書館見学報告

見学:2015年11月11日(水)

<見学会の企画について>

2015年8月23日(日)、本会主催で永山公民館市民企画講座として「中央図書館と地域館の望ましいあり方～図書館の全域サービスを考える～」を開いた。前半は調布市立図書館館長の小池信彦氏に調布市立図書館について話していただき、後半で「次世代のための図書館網を考えよう」のテーマでワークショップを行った。多摩市の図書館しか利用したことがない人、調布市立図書館の様子を初めて聞いた参加者から「見学したい」という声も出て、調布市の図書館見学を企画した。見学会の開催で本会会員と8月の講座に参加した人に絞った。

午前10時～ 中央図書館(小池館長に調布市立図書館について全体的な説明をしていただいでから見学)
午後1時半～ 佐須分館、調和分館
参加者 午前10名 午後12名

【調布市立図書館の概要】

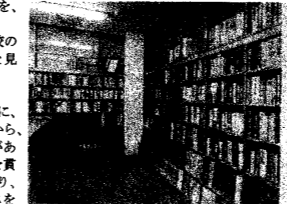
- ・1966(8.41)年6月開館。1969年2館目の国領分館開設⇒図書館網の開始。
- ・中央図書館1館と分館10館の11館で図書館システムを構築(800mに1館)
- ・司職採用で原則異動なし(正職員62名(再任用5名含む)、専門職託員延べ158名) 週3日 1日8時間

<調布市の図書館を見学して>

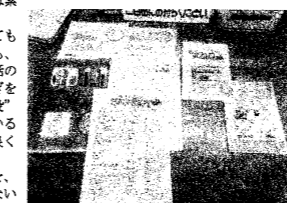
- ◆中央図書館
 - ・決してあたりまえの本ばかりではない書架も、本の並べ方一つで手に取って見たくなる工夫がある。
 - ・本棚の横のスペースには、今話題になっている事に関するミニコーナー展示があり、わざわざ探す必要もなく利用しやすい。
 - ・初めてブックカードを見た人は「これは便利ね。本は重いし。」という感想で、珍しかったようだ。
 - ・ハンディキャップサービス係……全国でも珍しいそうだが、係としてきちんと位置づけ、係長・担当職員の4名でサービスに当たる。中央図書館6階に部屋があり、一般利用者とあまり接しなくすように配慮されている。入口の装飾・展示も季節感があり素敵だった。A3用紙3枚を2つ折りした利用案内「ハンディキャップサービス ご案内」を、大きな字で読みやすく作っている。点字版もある。
 - ・「地域資料新着案内」……毎月、前月に受け入れた地域資料の一部を、「調布市」「東京都」「多摩・その他」に分けてA3両面刷りの案内を出している。
- ◆分館
 - ・「分館は、規模の小さな図書館という位置づけ。サービス内容での差はない。物理的・立地的な制限等で規模は違ってくるが」という小池館長の言葉通り、実際に見学してみて驚いた。蔵書数・床面積など、多摩市の地域館より小さい“小規模図書館”なので、“ちょっとした図書館”をイメージしていたが、実際に分館に入り、並んでいる本を見て、参加者から「すごい!」「〇〇図書館(目こる利用している地域館名)よりも本が揃っているわね!」…という声があちこちから聞こえてくる。両分館とも、特に専門類などの参考資料や地域資料・行政資料がきちんと揃えられており、また多摩市ではほとんど並ばない状態の旅行ガイドブックなども、新しいものが書架にずらりと並んでいるのに圧倒される。参考資料の充実ぶりについて職員に伺ったところ、「今まで代々におわたって集め、築き上げてきたので、さらに少しでも役立つ資料をと力を入れている。遣書は自館の利用状況も加味しながら館ごとに選んでいる」とのこと。正に「地域住民に役立つ図書館」として、責任を持って長い年月かけて築き上げてきたことを、まさまじと感じた。
 - ・学校新設に伴う併設の調和分館は、建物は学校の横に併設でも出入口も別で、学校とは別のものと見えた。
- ◆全体
 - ・8月の講演で調布市立図書館の歩みに触れた時に、当時の館長が「同じ税金を払っているのだから、どの人にも同じサービスを」と言われたと紹介があった。この言葉が今も図書館の基本姿勢の根幹を貫いている。「どこでも」歩いて10分で図書館があり、「だれでも」利用しやすいように様々なサービスを工夫している。
 - ・調布市では、図書館HPに毎年「〇〇年度調布市立図書館事業計画」を載せて、その年の具体的な事業計画・サービス方針・内容を掲げている。常に現状を把握して具体的方針を立てていることは素晴らしい。
 - ・調布市の図書館は、参考資料・地域資料がとても充実している。また個人的に利用した経験からも、職員の方量はすごいと感じている。小池館長が話の中で、レファレンス依頼に関する職員間の引継ぎをきちんとしていること、調査支援係に“まとも役”を置き、全体としてのレベルアップをはかっていること、そして「一人だけできる人がいる状態は良くない」と言われた言葉が強く頭に残っている。
 - ・多摩市は一体運営で、原則その館に返された本を、そのまま書架に並べているから、あまり見かけない本を目にすることもあるが、逆に同じ本が上下巻揃わずに下巻だけ2冊並んでいる場合もある。一長一短はあるのだけれど、地域館として「その地域の住民の利用に責任を持つ」という姿勢の違いを強く感じた。
 - ・資料の充実度は資料費の多寡によるところも大きいですが、調布市の場合、図書館職員は司職採用で原則異動なし。司職としての研修、経験の蓄積、専門職としてのプロ意識の高さが、かなり影響しているのではないかと思います。
 - ・調布市も課題はたくさんある。築40年以上の分館が4館、2階建ての2階にある分館が5館でバリアフリー化が必要など、多摩市と同様に施設の老朽化問題を抱えている。でも分館を廃止する、委託する等は考えていない。財政事情は自治体により異なるが、図書館に対する姿勢の違いを強く感じた。
 - ・時間が足りなくて十分見学できなかった閉架書庫などバックヤードの仕事等をもっとじっくり見学できたら良かったかなと思った。図書館とは、利用者の見えていない所で一生懸命働いている職員も居ると、初めて他市の図書館を見学した方に少しでもわかってもらえたでしょうか。今度は利用者として自分で行ってみるのも良いと思います。
 - ・若い職員の方々が、生きいきと仕事をされていること、雑誌閲覧スペースの設置方法、利用者が多いのも、身近な所に「つっかけ」で通える場所にあることも「いいなあ」と思った。(会員外)
 - ・「多摩市と財政の違いがそんなに差はないのに、5年先の未来を語っておられるのは?」と、やはり、先に財政があるのか?でしょうか。(会員外)
 - ・とにかく新しい本が並んでいることに驚きました。また、各図書館で購入することができるということも驚きました。図書館長が自信を持って説明していただいたことに感動しました。(会員外)



調布市立中央図書館ハンディキャップサービス



佐須分館_辞典類の書架



佐須分館_新着図書案内

○研究報告

◆◆地域資料の重要性◆◆



2016年4月14日発生の平成28年熊本地震の影響で、熊本や大分の図書館にも大きな影響が出ています。日本図書館協会によれば、4月20日時点で両県の県立図書館をはじめ、以下の図書館が休館となっています。

- <熊本県>熊本県立図書館、熊本市立図書館、同城南図書館、同とみあい図書館、同プラザ図書館、玉名市図書館、菊池市図書館、宇土市立図書館、宇城市中央図書館、合志市立図書館、大津町立おおづ図書館、菊陽町図書館、
- <大分県>大分県立図書館、由布市立図書館湯湯院図書館

2011年3月の東日本大震災をはじめ、災害により図書館が大きな影響を被ってきました。岩手県盛岡市では、当時の図書館員全員が他界されるなど、その後の図書館サービスの再建も苦難に満ちたものでした。

被災の影響は同時に図書館資料のダメージに繋がります。特に地域資料、と呼ばれるジャンルは、博物館などの資料と並んでその地域の公立図書館にしかない貴重なものであることも多く、資料の消失が地域の歴史の消失に繋がりがかねない危険性を持っています。

今回の熊本地震でも、熊本市の教育委員会などが、歴史資料の保存を呼び掛けています。

被災地域に対し、地域資料、歴史資料のレスキュー作業に当たった図書館関係者の取り組みは既に、図書館協会「図書館雑誌」などで共有されていますので、紹介しませんが、そもそも平常時から、こうした地域資料の収集体制を整え、場合によってはデジタルアーカイブにして利用の便を図る、などの地道な取り組みが重要です。

というのも、地域資料はその地域の社会文化活動のあり様、歴史的な経緯を明らかにするうえで極めて重要なものだからです。当方など転勤に伴う転居や地方出張も多かったせいで、生活や訪問の入り口で、その地域の公共図書館に足を運ぶことが多いのですが、そうした際も地域を知るうえで、地域資料のコーナーは大切なガイド役になっています。

さて被災地域、特に東日本大震災のように、沿岸部が津波により大きなダメージを受けたケースでは、町をどの場所、どのような形で再建すればよいのか、が大きな課題となります。こうした時に考慮すべき重要な点の一つに、その地域の「由緒」があります。

地域としての特色ある再建をしていくために、その由緒を踏むものとして、図書館の地域資料の存在が不可欠なのです。ただ残念ながら、被災地の図書館支援に当たった県立図書館員との面談では、こうしたことの重要性が必ずしも行政などに十分浸透できているとは言えない。教育委員会さえ、被災地の生活・経済基盤の目先の再建ばかりが目いき、将来を見通して「この町はどうあるべきか」という視点でものを考えることができにくい、と語っておられました。

それでは多摩地域での地域資料への取り組みはどうなっているのでしょうか。多摩地域にある公共図書館でも収集方針を明らかにするなどして、地域資料の収集、保管、閲覧提供などに努めていますが、主体が行政資料(これ自体重要な資料ですが)の先もあれば、地域の特性を踏まえた特別コレクションを持っている先もあり、千差万別です。また一般に頒布されているものだけではなく、新聞記事の切り抜き、ビラやパンフレットなどの小冊子、写真、ポスター、まで対象にしている図書館もありますが、必ずしも十分とは言えません。

こうしたなかで、民間の財団で優れた取り組みをしているのが、たましん地域文化財団傘下にある「歴史資料室」です。JR国立駅前の金融機関が入居するビル内にあります。

この資料室はビルの1フロアを資料室、書庫として確保し、図書館のように整備しています。2014年4月に取材した内容を以下に紹介します。

この資料室は母体の信用金庫の創立40周年記念事業で編集(1973年)した記念誌に、自社が地域とともにどのように発展を遂げてきたか、それを記述する過程で集まった、膨大な写真その他の資料を死蔵せず、保存し、一般の利用に供するために設置されました。

(注)たましん地域文化財団:歴史資料室 http://www.tamashin.or.jp/r_shiryo/

そして一番ユニークな点は、この資料室が「多摩のあゆみ」という地域誌を定期刊行していることです。内容は「東京都の西部に位置する多摩地域の歴史・民俗・地理・自然などをテーマに、論考や情報など」とされています。刊行する14千部のうち1万部は、信金の店頭配布用として、各営業店に配分され、予め申し込んだ希望者に対し、個別に郵送(料金は希望者負担)されています。また定期的に資料交換をしている先も多数に上ること、実はこの地域誌を通じた資料交換こそが、この歴史資料室に地域資料が集まる大きな動因のひとつです。

訪問日にご案内頂いた職員のおかげで、閲覧スペースのほか、裏の書庫なども拝見できました。図書や地域に立地する大学も含めた定期刊行物、地域の文化活動団体の同人誌、地図(一部は国土地理院から入手)や写真、絵ハガキに加え、最近ではイベントのポスターやチラシ類など、いわゆる地域資料収集の王道を極めればかりの事業を積み重ねています。

資料室を図書館という側面から眺めてみると、設置場所は国立の営業店舗が入ったビルの5階にあり、同じビルに歴史・美術館等も入居しています。情報資源は十進分類法を基準に、利用ニーズにうまく対応できるような配架がなされています。

①この資料室が自ら定期的に歴史や自然など、地域に根ざした情報の編集をして、自ら発信していること、②資料室を公開して、閲覧サービスを行うとともに、入手した資料の照会も誌面で行い(Web上でもファイルで公開しています)、資料室と季刊誌の両方がある意味で情報交換の場になっていること、③季刊誌を通じて資料を中心とした情報交換のネットワークができていること、が大きな特長になって、地域資料、地域情報交流の大きな輪が出来上がっている点で優れた取り組みだと評価できます。

保存上の配慮を要する地図やポスター、絵葉書、写真などは、専用のキャビネットや収納ケースに納められ(つまり開架ではなく、閉架状態、ということ)、設備の制約がある中で、可能な限り良好な保存状態を保つように工夫がなされています。ウェブ上で、資料の検索システムや、入手している雑誌のタイトル一覧など、利用者のペンを考えた情報提供にも工夫を凝らしています。

もちろん公共図書館のように、開架棚の脇にゆったり閲覧するスペースがあるわけではありません。図書館の間の相互貸出のような制度にも乗っていませんので、あくまで資料室と直接コンタクトする必要がありますが、地味な中にもキラリと光る活動ぶりに、感銘を受けました。

公共図書館関係者も、こうした「たましん資料室」の取り組みは大変参考になると思います。

(大石正人@図書館ネットワーク多摩)

文責:鈴木久美子
写真:小荒井 順

多摩市立図書館本館再構築基本構想 ヒアリングまとめ

2016.08.06. PM18:00～

「多摩市の図書館の現状と課題を考える。

第2回基本構想策定委員会

／ 図書館員や市民グループの皆さんからのヒアリングで判ったこと、想像されること。」中間報告

※それぞれに考えてこられた皆さんのご意見から想像して、次の計画/展開への論点が見える。・・・ヒアリング記録本編をごらんください。

●「図書館員の皆さん」の聞き取りと意見カードから

○図書館員としての専門性と矜持を持った職員集団がある。
・図書館発展期を支えた職員の一団が勇退の時期をむかえて、戦力の補完としてベテラン嘱託や臨時職員で運営しているが、本質的な対策は人材の長期計画的採用と次世代への専門性の伝達にありそうだ。

○図書館員集団の再編と新本館地域館の役割分担は関連する。
・図書館の職員(正職/嘱託/非常勤一般職)は財政的工夫と対処療法的配置で編成されてきたが、業務構成見直しから再編成が必要そうだ。(地域館の業務総合化や、施設維持管理の外部委託化などの将来展開)

○新本館開館後の地域館利用と再整備は各館の状況で多様化。
・図書館の職員の総意として、地域館の市民利用の魅力と蓄積が多摩図書館の原点かつ本質だという自負がある。新本館が中心館として機能するとき、地域館に残るべき環境と専門的サービスに意見あり。

○図書館基本計画(施策プログラム)は図書館員の知見を元に。
・地域館の市民利用の蓄積やその変化、多摩市内の地域性も熟知する図書館員が、基本構想後の基本計画プログラムに関わりたい。新本館の形や将来的展望など、未知の領域は研究研鑽して専門性を磨きたい。

○多摩市にみる図書館の二つの顔。
・来る人を待って対応する直接サービスで本館も地域館も手いっぱい。来れない人に向いてゆくアウトリーチサービスには手が廻らない。
・本館が一番大きな地域館。職員と資料のマネジメントと直接サービスはする。新本館は、本格的直接奉仕と全域図書館奉仕のセンターに特化したい。
・みんなで走っているが、クォーターバックが曖昧なフットボールゲーム。理念で走ってきたが図書館をサービスシステムとして再構造化したい。

<ノート>

●「市民利用者グループの皆さん」の聞き取りから

○図書館サービスと政策理念まで理解する利用者市民がいる。
・多摩市立図書館の出発の旗印は、司書専門職・資料・施設の3要素に加えて、自立した市民利用者の存在だった。半世紀を経たこの度の図書館縮減政策ビジョンへの市民の対応はこの自己証明といえる。

○図書館市民グループの課題は次世代への共感のバトンリレー。
・ニュータウンや図書館の草創期から、地域毎の文庫活動や地域館や学校でのお話ボランティアで読書環境を育ててきた。子供達は親になったがこの活動のバトンランナーにならない。図書館市民の縮小。

○文庫活動やお話ボランティア、図書館の手伝いは協働ではないが。
・文庫やお話会に図書館の場を借りて自己の学びを重ねる。専門的な図書館利用のかたち。大切な本との出会いを作る図書館員の領域を侵すことなく共に歩く。専門職人員削減が市民協働の目的ではない。

○新本館や地域館の将来像づくりに市民はどうかかわれるか。
・形式的市民アンケートや設計段階お絵かきワークショップではなく、図書館政策や基本構想の、図書館づくりの源流に市民は踏み込んだ。一度立ち止まり一緒に考えようという行政の構えには共感している。

○多摩市に中央図書館はなぜ必要なのか。自身の言葉を探す。
・中央図書館を求める17年の市民運動がある。いま行政が動き始めた。図書館の研究、他市館の見学、現状の分析、共学の誘い、全てした。そして尚、なぜ中央館が必要なのか、自身の腑に落ちる言葉を探す。
・市民の学びは、それ自体の中に目的と価値があると考えている。図書館に関わる市民運動の目的は、施設建設という政治ではない。地域に生きて仲間を作り自分を確かめる。運動も学びの一かたちだ。

<ノート>

「学校図書館の司書さん/統括ご担当」の聞き取りから

○多摩で学校図書館をはじめる体制はすべて整えられている。
・学校司書の全校配置、司書教諭との連携、新教科に対応した授業への参画、読書リテラシー、本との出会いの仕掛け、活動記録も万全。学校図書館の二つの役目をはたすプラットフォームは出来ている。

○学校図書館の提供資料の現在と今後の成長の課題を知りたい。
・学校毎の児童生徒一人の年間利用冊数は、どう経年変化しているか。
・学校毎の児童生徒一人の図書資料冊数は、どう経年変化しているか。
・学校毎の児童生徒一人の年間資料購入費は、どう経年変化してきたか。(現在、他市の比較を含めて資料作成中です。)

○学校図書館の司書奉仕の現在と今後の成長の課題を知りたい。
・個人として司書のスキルと情熱のバラツキはないか。研鑽の体制はどうなっているだろうか。司書集団としての連携のかたちはどうか。教育指導課との連携はどうか。公共図書館への思い。課題はまだある。

○学校図書館の環境はいまのままでよいか。
・冷房がなく、本のある学校の広場としての魅力づくりも手が着かない。研究会的に、学校図書館環境改善プロジェクトモデル校実験の提案もしたが、授業への対応で、現在の学校図書館は忙しいという。

○学校図書館は地域の図書館サービスポイントになるだろうか。
・兄弟が通う学校図書館へ未就学幼児が母とでかけ、お年寄りが孫の世代の場所を出会いの場として利用する学校図書館開放のアイデア。
・学校の安全性確保や市民利用動線分離など、施設の改良要素が多い。開館は5時まで、授業利用時間外の限定、職員増対応、課題が多い。
・BMや配本車サービスステーション化の可能性はあるかもしれないが、いまは、学校図書館そのものの成長と課題解決を先行させるべきか。

<ノート>